

評価項目	領域	中期目標	短期目標	取組指標	評価基準	自己評価		外部評価		改善策
						達成状況	評価	考察	評価	
① 教育課程の編成・実施	教育課程の編成・実施	教育課程の編成・実施にあたり、全教職員が自己目標をもって取り組む。	全職員が、学校経営に参画することを意図した自己目標を設定する。	教員評価システムによる校内組織の支援を行う時間を計画的に設定する。	A 定期的な実施と効果の検討と反省	支援には、十分とはいえなかったが実施できた。	B	教職員一人一人が、自己目標の達成に向けて取り組んでいることは、計画的な支援が効いていることの証左と考える。	B	管理職は、教職員の面接や授業参観の機会をとらえ、よりよい計画的な支援を考えていきたい。また、校内組織の支援や日常の指導・助言をより効果が上がるように実施する。
					B 定期的な実施					
					C 定期的な実施の計画					
					D 未実施					
				管理職の的確な指導・助言を行う。	A 指導・助言を充分実施、効果の検討	年度中途面接日や授業参観後、日常でできるだけ指導・助言を行うよう心がけた。	C	教職員の面接日の設定や授業参観の機会をとらえたり、また日常において指導や助言を意識して実施されたことが、アンケートに反映されていると捉える。		
					B 指導・助言を充分実施					
					C 指導・助言を実施					
					D 未実施					
確かな学力	わかる授業の創造に努める。	少人数指導を活用した、指導に力をいれる。	少人数指導の年間指導計画に沿った指導を行う。	A 年間指導計画に沿った指導を行い、改善を加えながら形態等実態にあわせて指導	8割実施することができた。予定で200時間も多く計画し、成果があがった。	C	200時間もの増時数である年間指導計画の8割を実施した成果は、全児童の8割超、回答保護者の9割超が「学校は分かり易い授業に努めている」と肯定的評価を下していることから窺える。	B		
				B 年間指導計画に沿った指導をほぼ実施						
				C 年間指導計画に沿った指導を8割実施						
				D 年間指導計画に沿った指導を7割実施						
				授業評価を行う。	A 授業評価の定期的な実施と結果の分析	全学年、全教科での実施ができなかった。評価を以後の指導に役立てた。	B	「家庭で毎日勉強している」児童が9割を超え、このことを認めている保護者も同じく9割を超えていることは、多くの児童が勉強に意欲を持つよう変容していることの証しである。		
					B 授業評価の定期的な実施					
					C 授業評価項目の作成					
					D 授業評価の未実施					
				意欲を持つことのできる評価の改善に努める。	A 単元評価の定期的な実施と結果の分析	全学年、全教科での実施ができなかった。評価を以後の指導に役立てた。	B	児童自身が「意欲的に学習している」という回答が昨年度より増えて、全児童の9割に達し、且つ回答保護者の75%が「我が子の意欲的な学習を認めている」ということは、目標をほぼ達成しかけていると判断する。		
					B 単元評価の定期的な実施					
					C 単元評価項目の作成					
					D 単元評価の未実施					
豊かな心	豊かな心の育成に努める。	心に響く道徳教育を目指して、道徳の時間の充実を図る。	読み物、心のノート、体験的な学習を取り入れる。	A 3つの内容を取り入れて実施	色々な内容を取り入れた学習ができた。	A	学習発表会の折に、児童が幕間に「さわがない」等のプラカードを高く掲げて皆の前に立っていた。公衆道徳を守らせることの体験的な学習を身近なところから実践されている。	A	計画に基づいて、検討しながら実施できたので、この協力体制を継続する。	
				B 2つの内容を取り入れて実施						
				C 1つの内容を実施						
				D 未実施						
			年間計画通りに実施する。	A 年間計画を作成し、検討しながら実施	児童の実態に応じ、検討しながら進めることができた。	A	返事の不明瞭な子へは、その都度、注意し、又ふざけている子には、やり直しをさせる等、児童の心に響くほどの、教師による毅然たる指導の一端を道徳以外の参観授業でも拝見する如くに、豊かな心の育成を目指して努められている。			
				B 年間計画を作成						
				C 年間計画を検討						
				D 年間計画を未作成						

評価項目	領域	中期目標	短期目標	取組指標	評価基準	自己評価		外部評価		改善策
						達成状況	評価	評価	評価	
① 教 育 課 程 ・ 学 習 指 導	豊かな心	豊かな心の育成に努める。	人権意識を高め、差別をなくしていくという態度を育てる。	児童の人権意識を高めるために、人権集会を行ったり、定期的に互いを認め合える場を設定したりする。(帰りの会や色々な教科でやっている)	A 計画に基づき、人権集会も定期的に互いを認める場を設定	職員間が協力し、計画的に推進することができた。	A	人権集会の持ち方に工夫が見られ成果が感じられた。	A	計画に基づいて、検討しながら実施できたので、この協力体制を継続する。 その状況に応じた具体的な方法を考え、実践しながら日々の指導を大切に積み重ねていく。
					B 年間指導計画を作成					
					C 職員会で検討					
					D 未実施					
				人権・同和教育の研究授業を行う。	A 全職員で検討し、研究授業を実施	6年社会科で同和教育について、全教職員で研修することができた。	A	同和教育の研究授業は、計画段階で十分検討され、本番の授業でよく生かされていた。		
					B 指導案を作成し、学年部で授業を実施					
					C 授業の在り方について職員研修は実施、授業は未実施					
					D 未実施					
				人権・同和教育に視点をあてた参観授業を行う。	A 全学年で実施	1月の参観日に全学年で実施した。	A	人権・同和教育に視点をあてた参観授業を、準備段階で十分検討して、全学年を対象に行った。保護者の参観も多く、成果があったと考える。		
					B いくつかの学年で実施					
					C 検討し、計画を作成					
					D 未実施					
健やかな体	体力づくりに努める。	休憩時間等に体を動かす子どもを増やす。	全校遊びなど、外遊び(体育館での活動も含む)の働きかけをする。	A 年間計画を立てるなど見通しをもった活動の実施	11月と12月に1回ずつ運営委員会を中心に全校遊びを実行した。ドッジビー、ドッジボールを縦割り班(各学年数名ずつ組み合わせたグループ)に分かれ校庭で活動した。	C	児童が体を動かして楽しく遊ぶ為に、班の編制等にも工夫が見える。外遊びは天候に左右されるので、計画の実施段階で柔軟な対応等を考えると回数を増やすことができた。	C	天候等の柔軟に対応しながら計画に基づき、定期的な実践を行いたい。	
				B 活動の実施(1ヶ月に1回程度実施)						
				C 活動の実施(2ヶ月に1回程度実施)						
				D 活動の未実施(1年間に3回程度)						
		道具の準備をする。	A 道具の準備と、道具を用いた遊びの紹介	サッカーボール、ソフトボールの整頓、児童の使いやすい収納場所の設置に心がけた。 ドッジビー(やわらかいフリスビー)を紹介し、多くの児童が楽しんで活用している。	C	児童の気持ちは移りやすい、道具の種類や充足と新しい遊具の準備が必要である。				
			B 道具数の確保および、新しい道具の準備							
			C 道具の修繕							
			D 道具の修繕不足および不良							
		スポーツテスト結果から児童の体力の実態を把握する。	A 学年別結果から、活動の検討	個人結果を児童および保護者に提示し、運動面でのよかった点、補うべき点を伝達した。 4年生の男女別学年平均結果を集計し、児童の運動面の実態把握に努めた。	C	個人個人にスポーツテストの結果を報告する際に、体力強化に向けたサジェッションがあれば、より効果が上がったと考える。				
			B 個人への結果の報告および、学年別結果の集計							
			C 個人への結果の報告							
			D 個人集計のみ							
授業時間等での体力づくりを実施する。	A 児童が目標を持ち取り組める活動の実施および再検討	朝マラソンとして、毎週1回定期的に校庭を走る活動を取り入れている。冬季は縄跳びを用い体力向上に努めている。	B	スポーツテストの結果と結びつけた体力づくり活動の実施により、児童の興味を喚起すればより効果が現れると考える。						
	B 活動の実施(1週間に1回程度実施)									
	C 活動の実施(1ヶ月に1回程度実施)									
	D 活動の実施(2ヶ月に1回程度程度)									

評価項目	領域	中期目標	短期目標	取組指標	評価基準	自己評価		外部評価		改善策
						達成状況	評価	考察	評価	
②	生徒	生徒指導	児童会組織を活用し、よりよい集団生活が送ることができるよう指導する。	毎月の生活目標を目標とした生活ができるよう手だてを考える。	A 生活目標達成のため、実施した手だての改善策を検討	生活目標達成のためのふり返りカードを作成し、実施した。	B	ふり返りカードの作成は高く評価したい。	B	ふり返りカードの結果をもとに、より効果的な定着のための手だてを話し合い、実施していく。
					B 生活目標達成のための手だてを作成・実施					
					C 生活目標達成のための手だてを作成					
					D 生活目標達成のための手だてが未検討					
			子どもの主体的な活動を生かした、積極的な生徒指導の充実を図る。	なかよしアンケートをもとに、教育相談を実施する。	A 年間行事の中に明確に位置づけて実施し、指導方法に活用	個人個人のアンケート結果をもとに教育相談を実施。また、学級データを集計・分析し、傾向把握の上学級指導に生かした。	B	個人個人を対象として毎学期実施しているなかよしアンケートは、学級指導に役立つと考える。	B	定期的ななかよしアンケート実施を、教育課程の中に明確に位置づけ、学級指導、また個々への指導に生かしていく。
					B 毎学期アンケートをもとに教育相談を実施し、指導方法に活用					
					C 毎学期アンケート、教育相談を実施					
					D アンケート、教育相談を実施できない学期あり					
	児童理解に努め、全校体制で指導を行う。	生徒指導職員会で共通理解を図る。	A 毎月の生徒指導職員会及び時に応じた共通理解を図り、指導方針を決定・実施し、成果と課題を検討	定例の生徒指導職員会及び、関係職員間の連絡を密にしながら、共通理解と指導方法を迅速に決定することができた。	B	現代の子どもは個性が強く多様化しており、世の大人の常識では考え難い行動にできることがある。常時、児童に接しておられる学校の先生方の努力に期待する。	B	問題行動等への迅速かつ確な対応はもとより、より積極的な生徒指導のための研修等を多く取り入れていく。		
			B 毎月の生徒指導職員会及び時に応じた共通理解を図り、指導方針を決定・実施							
			C 毎月の生徒指導職員会で共通理解							
			D 月により、生徒指導職員会の未開催							
指導	基本的な生活習慣の確立を図り、集団としての秩序を確立する。	生活態度(きちんとした返事、履き物そろえ)が改善するよう、指導を工夫する。	生徒指導職員会で指導方法を協議する。	A 生徒指導職員会で指導方法を協議決定・実施し、成果と課題を検討	学期ごとに、生活態度等の反省を以下の指導方針を決定した。また、その様子を積極的に保護者へ知らせ協力をお願いした。	B	児童の生活態度の改善に向け、家庭との連携を念頭において協議されたい。	B	児童の日常生活の問題点を、児童自身が問題と感じ自分たちで解決していけるような支援方法を工夫すると共に、家庭との連携を密にし一体化した指導を検討していく。	
				B 生徒指導職員会で指導方法を協議決定・実施						
				C 生徒指導職員会で指導方法を協議						
				D 生徒指導職員会で指導方法を未検討						
		児童会と連携し、改善を図る。	児童会(委員会)で実施した改善策の成果と課題を検討	A 児童会(委員会)で実施した改善策の成果と課題を検討	美化委員会がトイレのスリッパ調べを行い、結果を校内放送し意識を高めた。	B	学校での生活態度が、家庭へも繋がっていく方法を保護者に伝えていくことが望ましい。	B	学校での児童の取り組み、成果等を家庭へも伝え、一体化した指導の協力をお願いする。	
				B 児童会(委員会)で改善策を作成・実施						
				C 児童会(委員会)で改善策を作成						
				D 児童会(委員会)で改善策が未検討						

評価項目	領域	中期目標	短期目標	取組指標	評価基準	自己評価		外部評価		改善策
						達成状況	評価	考察	評価	
③ 進路指導	キャリア教育	将来の進路選択に必要な勤労観・職業観を身につけさせる。	児童の実態に即したキャリア教育の実践。	キャリア教育についての認識を深め、方向性を明確化する。	A キャリア教育実践に向けての方向性の検討	校務分掌担当者を中心にキャリア教育の全体計画を作成した。	D	短期目標はキャリア教育の実践とあるが、取組指標がその方向性の検討とトーンダウンしている。	D	研修に励み、実践を深めたい。取組指標の見直しを図りたい。
					B キャリア教育への職員研修の実施					
					C キャリア教育推進のための計画立案					
					D キャリア教育推進のための計画検討					
④ 安全管理	生命の安全	安全で安心な学校をめざし、生命の安全を図る。	安全指導と共に、安全対応能力向上に努める。	安全対応能力の向上のための、指導ポイントを明確にする。	A 指導ポイントの明確化のための話し合いの実施・作成・指導	日常の安全指導は行ったが、指導ポイントの作成はできなかった。	D	安全指導が児童により理解されるためにも、指導ポイントを明確にしてほしい。	D	安全対応能力向上のためポイントを明確にし、指導していきたい。 危機管理マニュアルは見直し、共通理解を計画的に行っていく。 児童が実際に行い、身につく講習を計画していきたい。
					B 指導ポイントの明確化のための話し合いの実施・作成					
					C 指導ポイントの作成					
					D 未実施					
				危機管理マニュアルの見直しを行う。	A 危機管理マニュアルの見直しと教職員での共通理解	必要に応じてマニュアルの見直しは行ったが、全部はできなかった。	C	想定できる不測の事故や他校の事例を参考にして、その都度、マニュアルの改訂をお願いしたい。		
					B すべての危機管理マニュアルの見直し					
					C 一部の危機管理マニュアルの見直し					
					D 未実施					
				登下校の安全指導を行う。	A 安全指導計画の作成と実施、効果の検討・反省	生徒指導部を中心に保護者の協力を得て実施できた。	B	地域との連携を図り、危険な場所や交通事故が想定できる箇所を、周辺事情の変化とともに、計画書の更新と実施をお願いしたい。		
					B 安全指導計画の作成と実施					
					C 安全指導計画の作成のみ					
					D 未作成・未実施					
				防災避難訓練や不審者対応訓練を行う。	A 防災避難訓練や不審者対応訓練の実施計画を作成・実施	不審者対応訓練は実施できなかったが、講習を実施することはできた。	B	避難訓練や不審者対応訓練は講習はもちろんのこと、ぜひ体を動かして教えてほしい。		
					B 一方の実施計画を作成・実施					
					C 実施計画を作成					
					D 実施計画の未作成					

評価項目	領域	中期目標	短期目標	取組指標	評価基準	自己評価	外部評価	改善策		
						達成状況	評価		評価	
⑤ 保健管理	健康づくり	子どもの自己健康管理能力の向上を図る。	日常の健康観察や疾病予防等の指導や食の指導を通して、子どもの自己管理能力の向上を図る。	児童一人一人の健康状況について、情報の収集と児童理解を図り、学校保健委員会の資料として活用する。	A 学校保健委員会を開催し、検討	学校医を招き学校保健委員会を開催した。今日的課題を見据え、家庭へのアンケートから情報の収集を図り、資料として活用した。	A	今後も、資料を教育活動に積極的に活用していただきたい。	A	基本的な生活習慣については、学校保健委員会で取り上げたり、保健だより等で呼びかけを図っていきたい。
					B 家庭教育部会にて検討し、計画案を作成					
	C 話し合いによる検討									
D 話し合いの未実施										
			健康診断を効果的に実施する。	学校保健統計・疾病治療状況統計にまとめ、「わたしの健康」にて保護者へ知らせると共に、健康を保持増進することができる能力や実践していく。	A 保険統計等で明確化し、「わたしの健康」にて保護者へ周知(問題点を明確化)	「わたしの健康」に個人の結果を記入し配布することはできた。今後、保健統計上の問題を明らかにし改善に向けて努力したい。	B	今後は、資料を活用し、課題解決への取り組みを積極的に進めてほしい。	B	「わたしの健康」記入の資料を活用したり、保健統計の資料を活用することにより健康の保持増進を図っていきたい。
B 「わたしの健康」に記入し、配布										
C 「わたしの健康」について話し合いによる検討										
D 未実践										
心のケア	心のケアや健康相談活動を充実する。	子どもの、心や体の相談ニーズに応える。	自由に相談できる雰囲気、心と体の相談窓口を開く。	A SCや、児相との専門機関へ相談し検討、解決への努力	不登校や悩みを抱える児童に対しサポート関係は築くことができた。SC・専門機関へも相談し解決へ向けて努力した。	B	悩みを抱える児童と先生との信頼関係は重要であり、SC・専門機関との連携をさらに強固にし、不登校や悩みを抱える児童へ、より良い対応を今後もお願いしたい。	B	心のケアについては、SC・専門機関との連携を大切にし、保護者と共通理解をしながら進めていきたい。	
				B 話し合いを定期的開催し、問題を明確化						
				C 話し合いによる検討						
				D 未実施						
⑥ 特別支援教育	校内支援体制	特別支援教育の校内支援体制を整備し、個別的教育ニーズに対応した指導・支援を充実する。	特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援体制を整え、校内委員会の開催や校内研修会を充実させる。	校内特別支援教育検討会や校内研修会の実施について、スケジュール化を図る。	A 検討会や研修会を実施し、成果と課題を検討	毎月1回の生徒指導職員会において、支援を要する児童についての様子・対策について話し合った。(9回) 6月19日には外部から講師を招き全教職員で、支援を要する児童への対応や特別支援教育について研修を受けた。	B	今後も、定期的に校内研修を開催し、校内支援体制の充実に努めてほしい。	B	定期的な研修会の実施により職員間の共通理解を図り、特別支援を要する児童に対するきめ細かな支援体制、内容、方策を検討、実施する。
					B 検討会や研修会のスケジュール化を図り、実施					
					C 検討会や研修会のスケジュール化の検討					
					D 検討会や研修会のスケジュール化の未検討					

評価項目	領域	中期目標	短期目標	取組指標	評価基準	自己評価		外部評価		改善策		
						達成状況	評価	考察	評価			
⑦ 組織 運営	校務分掌	適切な校務分掌により、組織的運営の円滑化と効率化を図る。	校務分掌の各組織ごとの目標を設定し、達成に向けた具体的取り組みを推進する。	各分掌別の校務処理計画をスケジュール化する。	A 校務処理計画を検討し、スケジュール化を図り実施。成果と課題を検討	スケジュール化の検討のみに終わった。実務は各分掌で協力し行った。	C		C	実務は各分掌で協力し行われているので、今後は、スケジュール化を図ってほしい。	C	年度当初、各分掌部会で目標・具体的取り組みのスケジュール化を図りたい。職員会でも意図的に部会を開き、スケジュールの検討を行いたい。また、服務規律研修では、心に残る研修実施を心がけたい。
					B 校務処理計画を検討し、スケジュール化を図り実施							
					C 校務処理計画のスケジュール化の検討							
					D 校務処理計画のスケジュール化の未検討							
	服務規律	教職員の厳正な服務規律の確保に努める。	服務規律の確保に関する研修を徹底する。	研修計画通りに実施する。	A 研修計画通りに実施し、成果と課題を検討	計画の7割以上を実施することができた。教職員評価アンケートでも、服務規律の確保については高いポイントであった。	C		C	服務規律は教師としては当然守るべきことである。研修を実施したことに重点をおかず、内容を重視していただきたい。	C	
					B 研修計画通りに実施							
					C 研修計画の7割を実施							
					D 研修計画の5割を実施							
⑧ 研 修	校内研修	校内における研修を通して、教師としての力を高める。	校内研修の充実を図る。	校内研修の推進計画を立てる。	A 年間の見通しをたて、校内研修実施	年間見通した研修計画がたてられなかった。学習活動・生徒指導・健康安全に関する研修は、その都度行うことができた。	C		C	研修の目的は何かをはっきりさせ、その上で研修内容を充実させて、学期ごとの見通しをたてて実施してほしい。	C	研修の目的を明確にし、研修内容を充実させる。また、学期ごとの見通しをたてて校内研修を実施する。
					B 学期ごとの見通しをたて、校内研修実施							
					C 必要に応じて、校内研修実施							
					D 校内研修がほとんど未実施							
				校外での研修後、伝達研修を必ず実施する。	A 伝達研修の場を頻繁にもち、実施	様々な研修会・研究会での研修の後、きちんと伝達研修をした。プール管理・ノロウイルスへの対処といった、その都度必要な研修もきちんと行った。	B		B	研修したことをそのまま現場に伝えるだけでは、研修としてやや弱く不十分と考える。今までの実践経験を加味した研修へと高めていただきたい。	B	自分の経験をもとに、わかりやすく研修内容を伝える。伝達研修を、その都度、行う。
					B 伝達研修の場をもち、実施							
					C 伝達研修を何度か実施							
					D 伝達研修がほとんど未実施							
	校内研究	研究授業、教材研究を通して授業力を高める。	校内における研究授業や教材研究により、指導方法等の工夫改善を積極的に行う。	校内研究の推進計画を立てる。	A 年間の見通しをたて、校内研究を推進	どの学級でも、研究主題をもとにして研究授業を実施できた。	A		A	どの学級でも、年間の見通しのもとに、研究主題を基にした研究授業が実施できたことは評価したい。	A	引き続き、年間の見通しをたてて校内研究を推進する。
					B 学期ごとの見通しをたて、校内研究を推進							
					C 校内研究の見通しをもった計画・実施の未実施							
					D 校内研究がほとんど未計画・未実施							
全教員、研究授業を行う。				A 全教員、研究主題をもとにして研究授業を実施	年度当初に年間計画を立て、校内研究を推進できた。	B		B	すべての学級で、研究主題をもとにして研究授業を実施されたことは評価したい。	B	すべての学級で、研究主題をもとにして研究授業を実施していく。	
				B すべての学級で、研究主題をもとにして研究授業を実施								
				C いくつかの学級で、研究主題をもとにして研究授業を実施								
				D 研究主題をもとにした研究授業の未実施								

評価項目	領域	中期目標	短期目標	取組指標	評価基準	自己評価		外部評価		改善策	
						達成状況	評価	考察	評価		
⑨ 保護者・地域 ・ 地域 ・ 住民等 との 連携	学校運営への参画・協力	保護者や地域住民との連携を強化し、学校運営に対する参画や協力を得る。	PTA役員や地域団体から学校運営に関する意見を得る。	機会をとらえ、学校に対する意見を積極的に得る努力をする。	A 会合に積極的に参加・意見の収集を実施	管理職だけでなく、ほめ条例の会などへ職員も参加するようにした。	C	ほめ条例推薦委員会等は、学校側と地域との情報交換の場でもあり、職員交代での参加でもよいので、今後とも参加してほしい。	B	できる範囲内で、計画的に参加するように努める。	
					B 会合に参加・意見収集を実施						
					C 会合に参加						
					D 未実施						
		保護者や地域住民の意見や要望を学校運営に生かす。	運動会や学習発表会など学校行事について、アンケートを実施する。	A 定期的な実施と内容の検討・反省の実施	運動会・学習発表会ともにアンケートを実施した。回収率も運動会90%、学習発表会は80%であった。	B	運動会・学習発表会ともアンケートの回収率が高く、保護者の前向きな姿勢が伺える。	B	アンケート結果を十分検討する時間を確保し、来年度に生かしていきたい。		B
				B 定期的な実施と反省							
				C 定期的な実施							
				D 未実施							
	ふるさと教育	地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用した教育活動を工夫する。	地域の「ひと・もの・こと」を生かしたふるさと教育を展開する。	地域の教育資源マップを作成する。	A 地域教育資源マップの作成と活用	マップの作成には至らなかったが、地域教育資源の活用状況と計画を記録し、マップ作りの資料とした。	C	ふるさと「ひと・もの・こと」に直接ふれる機会を多くし、ふるさとのよさに気づき、ふるさとを大切に思う心を育ててほしい。	C	公民館や地域の社会教育機関等との連携を密にし、情報を収集したり、提供(発信)したりする中で、教育資源マップの作成に努めたい。	
					B 地域教育資源マップの作成						
					C 地域教育資源の調査						
					D 地域教育資源の未調査						
と の 連 携	学校種間の円滑な連携	学校種間の連携を図り、長期を見据えた成長を目指す。	町内各保育所、中学校と定期的な連絡会を実施し、学校間の円滑な接続を工夫する。	保育所年長組と1年生の交流会を実施する。	A 保育所と連携し、保小連絡会を2回実施	保小連絡会を計画することができなかった。参観授業はみてもらうことができた。	D	保小連絡会は計画に入れて実施し、連携を図り情報交換を密にしてほしい。	D	忙しい中ではあるが、保育所・中学校と計画的に連絡会を実施したい。年度当初に計画し、実行に移していきたい。特に、小中との情報交換は児童が中学校へ適応していくために必要と思われるので2回実施を目指したい。	
					B 保育所と連携し、保小連絡会を実施						
					C 保育所と連携し、保小連絡会を計画						
					D 保小連絡会の未検討						
	と の 連 携	学校種間の円滑な連携	学校種間の連携を図り、長期を見据えた成長を目指す。	町内各保育所、中学校と定期的な連絡会を実施し、学校間の円滑な接続を工夫する。	保育所年長組と1年生の交流会を実施する。	A ふれあいの深まる、交流会を実施	1年生が工夫をこらし、交流会を実施することができた。	A	入学前の1年生とのふれあい交流会は大変良いこと。継続して実施してほしい。		A
						B 交流会を実施					
						C 交流会を計画					
						D 交流会を未検討					
と の 連 携	学校種間の円滑な連携	学校種間の連携を図り、長期を見据えた成長を目指す。	町内各保育所、中学校と定期的な連絡会を実施し、学校間の円滑な接続を工夫する。	保育所年長組と1年生の交流会を実施する。	A 中学校と連携し、小中連絡会を2回実施	小中連絡会を1回実施することができた。	B	連絡会は年1回の開催でも、必要に応じて情報交換の機会が必要であると思われる。年2回ぐらいは連絡会が定期に実施されてもいいのではないかと。	B		
					B 中学校と連携し、小中連絡会を実施						
					C 中学校と連携し、小中連絡会を計画						
					D 小中連絡会の未検討						

評価項目	領域	中期目標	短期目標	取組指標	評価基準	自己評価		外部評価		改善策
						達成状況	評価	考察	評価	
⑩ 施設 ・ 設備	安全・維持管理	施設・設備の安全・維持管理に努める。	随時、安全点検と簡易補修を行う。	毎月の安全点検を確実に実施する。	A 毎月定期的に確実に実施、修繕	点検日の朝礼時に必ず呼びかけることにより、毎月きちんと安全点検を行うことができた。全校一斉に行うことにより効果も上がったと思われる。	B		B	安全点検は、定期的に行うことはできたが、日常的なメンテナンスの具体的な方策を検討する必要がある。統合6年間たち、施設の傷みもでてきているので、補修に努めていきたい。
					B 点検簿を作成し、内容の明確化					
					C 点検簿について話し合いをし、文章化・明確化					
					D 未実施					
				年間の作業スケジュールを図る。	A 作業スケジュールを図り、課題を検討	作業スケジュール通りに実施し、施設・設備の管理に努めた。	B		B	
					B 作業スケジュール化を図り、実施					
					C 作業スケジュール化の検討					
					D 作業スケジュール化の未検討					

※1 江津市の共通項目は、領域部分における次の4項目とする。

- ① 確かな学力の育成 ② ふるさと教育の推進 ③ 安全対応能力の向上 ④ 学校間の連携

※2 評価項目と領域との関連は、各学校の重点目標により異なってよい。